



平成19年11月21日

各位

会社名 ニチハ株式会社
代表者名 代表取締役社長 井上 洋一郎
(コード番号 7943 東証一部・名証一部)
問合せ先 執行役員財務部長 南 光 正
(TEL 052-220-5111)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向などを踏まえまして、連結、個別とも平成19年8月2日に公表いたしました平成20年3月期(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成20年3月期 通期連結業績予想数値の修正(自平成19年4月1日至平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	100,700	5,500	5,050	2,600
今回修正予想(B)	93,500	1,700	1,100	△ 200
増減額(B-A)	△ 7,200	△ 3,800	△ 3,950	△ 2,800
増減率(%)	△ 7.1	△ 69.1	△ 78.2	△ 107.7
(参考) 前期実績 (平成19年3月期)	96,815	6,098	5,922	3,093
前期比増減率(%)	△ 3.4	△ 72.1	△ 81.4	△ 106.5

2. 修正の理由

平成19年8月2日に公表いたしました通期業績予想(以下「前回発表予想」)につきましては、当下期は業績に影響を与える不透明な要因が多いため、見直しを行わず、通期業績予想の修正は当中間期の下方修正のみ反映させましたが、下記のとおり通期業績予想を修正いたします。

(1) 売上高について

当社グループ主力製品の窯業系外壁材(以下「外壁材」)の主要マーケットである持家の新設着工戸数は本年2月以降前年比マイナスが続いておりましたが、当第2四半期は改正建築基準法(本年6月20日施行)による建築確認申請手続きの厳格化に伴う建築確認審査遅延の影響も加わり、3ヶ月累計で前年同期比26.3%減と大幅に落ち込みました。

外壁材業界全体の国内出荷数量についても、当期初より低調に推移しておりましたが、当第2四半期は上記着工戸数の減少の影響が本格化し、当中間連結会計期間では前年同期比7.1%の減少となりました。

このため、当社グループの当中間連結会計期間の売上高は前回発表予想を3.6%下回る結果となりました。

当下期については、上記着工戸数の減少の影響がさらに本格化するものと予想されます。現在の改正建築基準法施行による混乱状態が収束し、新設住宅着工戸数がどのように回復していくのか、また、これが外壁材業界全体の出荷数量に与える影響についても先行きの見通しが全く不透明な状況にあります。

従って、通期の業績につきましては予想が極めて困難であります。外壁材業界全体の出荷動向の先行指標となっている持家などの新設住宅着工戸数のこれまでの大幅な落ち込みから推計する限り、外壁材のトップメーカーである当社グループの業績に与える影響は極めて大きく、当下期の外壁材の売上高は前年同期比10%程度減少する可能性が高いと現段階では見込んでおります。

以上から、当中間期の売上高の未達と当下期の売上高の予想を踏まえまして、通期の売上高の予想を前回発表予想対比大幅に下方修正いたします。

(2) 損益について

上記のとおり、主力製品の外壁材を始めとして売上高が前回発表予想比減収となるとともに、国内製造子会社が生産調整を要することから、前回発表予想比大幅な減益となると予想されます。また、これに加えて下記のとおり変動費のコストアップを外壁材の販売価格の上昇や合理化などにより吸収できないため、この減益要因が前回発表予想時の想定を上回る見込みであります。

① エネルギーや原材料価格などの高騰がここ3年間続いておりますが、当下期は当中間期を上回る高騰が予想されます。また、これに加えて、当下期より窯業系外壁材に係る JIS 規格の改正（当社グループの外壁材の販売数量の凡そ半数を占める 12 mm厚品の 14 mm厚品への移行など）に伴い 14 mm厚製品を順次生産・発売いたしますが、これらの変動費のコストアップは前回発表予想に織り込んでおりませんでした。また、これまで各種合理化施策によるコストダウンにより一部吸収してまいりましたものの、合理化施策も限界に近づいている上、当期は生産調整を要することから合理化効果の実現は困難と予想されます。

② 一方、当下期の外壁材の販売価格につきましては、当社グループは本年 11 月に 16 mm以上厚製品の一部について価格改定を実施したため、この価格改定と 14 mm厚製品の販売による販売価格の上昇を計画しております。しかしながら、現状の極めて厳しい販売環境を勘案して、これによる増益影響を今回修正予想には殆ど織り込んでおりません。

以上により、営業利益、経常利益及び当期純利益は、いずれも前回発表予想を大幅に下回る見込みであります。

(参考)

平成 20 年 3 月期 通期個別業績予想数値の修正（自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	85,600	4,400	4,600	2,750
今回修正予想 (B)	80,600	1,500	1,600	700
増減額 (B-A)	△ 5,000	△ 2,900	△ 3,000	△ 2,050
増減率 (%)	△ 5.8	△ 65.9	△ 65.2	△ 74.5
(参考) 前期実績 (平成 19 年 3 月期)	82,574	4,130	4,257	2,498
前期比増減率 (%)	△ 2.4	△ 63.7	△ 62.4	△ 72.0

以上